

【基本的運営方針】 A 優れた作品の収集と保管

評価項目	評価指標	指標値	実績値	達成率	評価項目の 評価	取組状況	成果・課題	基本的 運営方針 の評価	今後の対応方向
コレクションの 活用状況	コレクションの稼働率	12.2%	23.3%	191.0%	a	・コレクション・ギャラリーにおける展示のほか、コレクションの特徴を活かした特別展「アートの中の風景」展を開催した。 ・オンラインアート教室において作品紹介、他館への貸出等を行った。	・油彩やポスターなど142点を展示した。(所蔵品の約17%) ・オンライン活用により、遠隔地にコレクションを紹介する機会が増えた。	B	・オンラインアート教室事業の実績数を伸ばし、展覧会以外においてもより一層コレクションを活用していく。 ・寄贈申出があった作品について引き続き当館の収集方針に基づいた調査研究活動と作品収集活動に努める。 ・収蔵庫の清掃や温湿度管理の徹底など、IPMの考え方や対策を引き続き重視する。
	所蔵作品を他の美術館企画展で活用								
コレクションの 充実度	収集方針に基づき、主体性を持ち積極的に収集活動を行う				c	・収集方針に基づいた調査活動と情報収集を行ったが、今年度は他館が購入枠を確保したため購入作品はなかった。 ・年度末に寄贈等の申出が数件あったが調査検討に時間を要するため次年度以降に見送った。	・収集対象の作品の所在や市場価格などの情報を取得し、取りまとめた。		
保管状況の 適切さ	適正な保管環境を保持し、必要な調査に基づき措置を行う 計画的に所蔵作品の修復を行う				b	・春季から夏季に気候及び機器の性能劣化による展示室と収蔵庫の温湿度変化があったが、設備委託業者と連携して適宜補修・メンテナンス等を行い対処した。 ・収蔵庫の定期清掃、展示室・収蔵庫の温湿度管理に努めた。	・昨年度と比較して夏季から秋季の文化財害虫の増加を抑制することができた。		

【評価の評語】

評価の結果	評価項目	基本的 運営方針
優れた成果を上げている	a	A
目標(計画)を達成している	b	B
目標(計画)をほぼ達成している	c	C
目標(計画)を達成できていない(努力が必要)	d	D
方法に再検討が必要	e	E

【基本的運営方針】 B 多彩で特色ある展示活動の充実

評価項目	評価指標	指標値	実績値	達成率	評価項目の評価	取組状況	成果・課題	基本的運営方針の評価	今後の対応方向
常設展示の充実度	常設展示観覧者数	19,600人	16,420人	83.8%	C	・観覧者数の増に向けて、ホームページやSNSで関連事業等について情報発信を行った。	・観覧者数は当初の目標に達しなかったものの、満足度は高かった。	C	
	常設展示観覧者の満足度	91.4%	91.2%	99.8%					
	常設展示のリポート率	31.2%	29.5%	94.6%					
特別展示の充実度	特別展示の観覧者数	32,000人	25,972人	81.2%	C	同上	同上		
	特別展示観覧者の満足度	94.3%	98.0%	103.9%					
	特別展示のリポート率	30.6%	28.4%	92.8%					
入館者の拡充	美術館の魅力を広め入館者増につながる取組の実施				b	・コンサートや講演会など展示会の内容に関連したイベントを企画開催し、リモートミュージアムで展示会を紹介して魅力発信に努めた。	・コンサートは参加者数が定員を満了したが、講演会は定員に満たないことがあった。		
展示の状況	展示のねらいが効果的に表現できているか				b	・各展示会のねらいを明確にし、内容に即した展示プランを立案し実施した。	・概ねねらいどおりに表現できた		
館外展示の充実度	移動美術館入場者満足度	(設定なし)			C	・6～7月に帯広百年記念館の企画展へ帯広市寄託作品2点を貸出した。	・寄託作品の取扱や輸送方法の確認に課題を残した。		
	その他の館外展示の状況								

【評価の評語】

評価の結果	評価項目	基本的運営方針
優れた成果を上げている	a	A
目標(計画)を達成している	b	B
目標(計画)をほぼ達成している	c	C
目標(計画)を達成できていない(努力が必要)	d	D
方法に再検討が必要	e	E

【基本的運営方針】 C 豊かな人間性を育む学習の場と美術情報の提供

評価項目	評価指標	指標値	実績値	達成率	評価項目の評価	取組状況	成果・課題	基本的運営方針の評価	今後の対応方向
教育普及事業の充実度	教育普及プログラムの実施数	56回	108回	192.9%	b	・教育普及プログラムについて、昨年を上回る回数を実施することができた。	・感染症対策として行った、人数制限や各展覧会で実施しているクイズを企画元の意向により一部実施できない特別展があったことから、参加者数は減少となったものの、実施内容については、維持に努め、参加者の満足度が向上した	C	・引き続き多くの方に満足していただけるよう、アンケートの内容なども踏まえ、実施方法の工夫・改善に努める。 ・各展覧会で計画していた事業が実施できない場合の対策について検討する。 ・図書コーナー利用者の増に向けて図書の選定や整理を行う。 ・画像の取り扱いについて事前確認をするとともに、画像を使用できない場合の対策を検討する。
	教育普及プログラムの参加者数	7,831人	5,385人	68.8%					
	教育普及プログラムの満足度	95.5%	100.0%	104.7%					
	教育普及事業の状況								
美術情報提供の充実度	ARS、図書コーナーの利用者件数	6,492人	89人	1.4%	d	・コロナ感染症対策緩和により図書コーナーを再開した。 ・画像の取り扱いに制限のある作品が多く、SNSを活用しきれなかった。	・図書コーナーの利用方法及び件数の集計方法を変更したため、利用者件数が減っている。 ・画像を使用せずに情報発信を行ったが、投稿数が減少した。	C	
	ARS、図書コーナーの利用者満足度	76.4%	77.0%	100.8%					
	多くの来館者が利用できる図書コーナーの環境整備・保持								
	HPアクセス件数	189,201件	188,285件	99.5%					
	メールマガジン等発行回数	(実施なし)							
	ソーシャルメディアの投稿数	123回	72回	58.5%					
	情報発信の状況								

【評価の評語】

評価の結果	評価項目	基本的運営方針
優れた成果を上げている	a	A
目標(計画)を達成している	b	B
目標(計画)をほぼ達成している	c	C
目標(計画)を達成できていない(努力が必要)	d	D
方法に再検討が必要	e	E

【基本的運営方針】 D 活動の基礎となる調査・研究の推進

評価項目	評価指標	指標値	実績値	達成率	評価項目の評価	取組状況	成果・課題	基本的運営方針の評価	今後の対応
調査・研究の充実度	学芸員による調査報告				a	<ul style="list-style-type: none"> ・収集方針に基づく作家・作品や次年度以降の展覧会企画について実地調査や視察を行い各自調査研究を進めた。 ・作家及び作品資料の寄贈を積極的に受け入れるとともに、不要な資料等を整理処分した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主任学芸員が道立美術館・芸術館紀要に十勝で戦前に活躍した女性画家に関する論文を寄稿した。 ・コレクション・ギャラリーの展示及び解説等に調査研究の成果を反映した。 ・新たに保管スペースを確保して分類整理を進めた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・コレクション以外の各自の専門分野についても積極的に調査研究活動を進める。 ・引き続き適切な整理を継続する。
	二次資料の状況								

【評価の評語】

評価の結果	評価項目	基本的運営方針
優れた成果を上げている	a	A
目標(計画)を達成している	b	B
目標(計画)をほぼ達成している	c	C
目標(計画)を達成できていない(努力が必要)	d	D
方法に再検討が必要	e	E

【基本的運営方針】 E 地域文化の振興

評価項目	評価指標	指標値	実績値	達成率	評価項目の評価	取組状況	成果・課題	基本的運営方針の評価	今後の対応方向
地域の関係機関との連携状況	ボランティア団体等の主体的な事業の参加者数	110人	126人	114.5%	a	・感染対策を徹底し、例年開催している子ども向け事業2種を計5回企画実施した。 ・美術館ならではのイベントを企画し、地域の主催事業と連携して開催した。	・ふだんは利用の少ない低年齢層の美術館利用に結びついた。 ・地域との連携事業したことにより事業期間中の入館者の増につながった。	B	・引き続きボランティアの主体的な事業に協力し、活動の場を提供していくとともに、美術館利用に結びつく事業を提案する。 ・地域と連携した取組を進め、入館者数の増につなげる。 ・当館独自のオンラインアート教室事業は学校に加え、社会教育機関からも要請があるため、引き続き積極的に対応する。
	ボランティアが活動しやすい場の提供								
	地域と連携した取組の状況								
学校との連携の状況	キャンパスパートナーシップのメンバー校数	1校	1校	100.0%	c	・オンラインアート教室事業は、予定の学校数や対象地域を超えて対応した。 ・指導者研修は、学校の長期休業期間中にオンラインと実地を併せた研修を行った。	・オンラインアート教室事業は実績値の増加につながり、参加校の反応も良く手応えを感じた。 ・職場体験などの教育活動はコロナ禍の影響で要望が少なかった。	B	
	出張アート教室(オンラインアート教室)の延べ参加者数	80人	356人	445.0%					
	指導者研修の延べ参加者数	10人	3人	30.0%					
	学校教育活動への対応数	11件	9件	81.8%					
	参加者・利用者満足度								

【評価の評語】

評価の結果	評価項目	基本的運営方針
優れた成果を上げている	a	A
目標(計画)を達成している	b	B
目標(計画)をほぼ達成している	c	C
目標(計画)を達成できていない(努力が必要)	d	D
方法に再検討が必要	e	E

【基本的運営方針】 F 良好な滞在環境の提供

評価項目	評価指標	指標値	実績値	達成率	評価項目の評価	取組状況	成果・課題	基本的運営方針の評価	今後の対応方向
附帯施設の充実度	レストラン・喫茶利用者の満足度	74.6%	80.2%	107.5%	a	・当館ボランティアしらかばの会の協力の下、特別展における特別メニューの提供やショップのキャッシュレス対応などサービスの向上に努めた。	・利用者の要望・意見等をボランティア団体に情報提供したことにより、喫茶やミュージアムショップの運営に反映することができた。	A	・求められているサービスを実践できるよう来館者の声や意見を共有しながら、ボランティア活動の運営に協力する。 ・職員の研修を行うなど、館のホスピタリティの向上を図る。
	ミュージアムショップ利用者満足度	78.1%	89.3%	114.3%					
	事業者と協力してのサービス向上の実践								
館のホスピタリティ	館内スタッフの対応に関する利用者の満足度	92.6%	95.3%	102.9%	a	・展覧会ごとに職員、監視ボランティアへのガイダンスを行い、留意事項等を確認している。 ・観覧者数や対応状況を毎日確認し、職員間で情報共有をしている。 ・アンケートに書かれた意見等も共有し、スタッフ対応の改善に取り組んだ。	・利用者の要望等を職員間で共有することが利用者の満足度につながった。	A	
	ホスピタリティ向上に向けた取組み								
施設環境の保持	施設内外の環境への満足度	93.0%	97.5%	104.8%	a	・美術館の雰囲気損ねることがないように、また来館者が利用しやすい什器の配置などを工夫している。 ・日常の点検により安全保持のほか、施設設備の補修や修繕を行った。	・什器の入れ替えを行い、環境整備を進めることができた。 ・老朽化している設備の補修や更新に経費がかかる。	A	
	施設安全性保持のための必要な措置								

【評価の評語】

評価の結果	評価項目	基本的運営方針
優れた成果を上げている	a	A
目標(計画)を達成している	b	B
目標(計画)をほぼ達成している	c	C
目標(計画)を達成できていない(努力が必要)	d	D
方法に再検討が必要	e	E